

大野木グラウンドワークだより

平成 21 年 1 月 14 日 発行 NO 28 発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

1 月 10 日（土）天気予報は「雪だるま」しかし、8 時半には日差しが出て天気はくもりから晴れになる。

1 月は何かと行事が多くて土曜日になりましたが、それでも初釜、みそつき、その他で皆さん新年早々忙しくされていて参加は 13 名とやや小ぶりとなりました。

まず、ファイヤーサークルで焚き火のご馳走です。

暖かい火を囲んで新年のあいさつ、いいですね、今年もがんばろうと

炭窯修理の検討～内側最下段の石積みを外すかどうか、ここは武さんか中嶋さんに来てもらわないと、暫くして中嶋さんが見えられ相談の結果、残しても赤土の押さえに厚みがでないから外すことに決定。

礎石でしっかりしたものが積み込まれているため、外すのに一苦労

外して、土を出して、清掃して、それから赤土と石灰を混ぜて、それを中に運び込み、狭い窯のなかで叩き込みです。結構きつい作業です。ベースをしっかり固めて立ち上げていくのですが、相当運び込まれたにもかかわらずなかなか成果見えてきません。

休憩はクラブでとのことで、行きますと中嶋さん差し入れの温かい甘酒が用意されていてみんなでふーふー言いながらおいしくいただきました。

そこで、三者協定の内容説明と 21 プランとりわけ中学生体験プログラム案について協議。

それから、内釜の本格的たたき上げを続行～

木之本町赤尾の三家多賀成さまから寒中お見舞いと併せて「うこっけい：鳥骨鶏の卵」が届きました。「先日 ごちそうを作ってくださいましたご婦人方の集まりで、白飯にかけて食べていただけたら幸いです」とありました。

たくさん入っていましたので男性陣もみんなおいしくいただきました。ご飯の上の黄身がはしでつまめるのですからプリンプリンの黄身。「一度、見学に行きたい」と女性陣から声が出て「春になれば近くの温泉も含めて計画を」ということになりました。

三家さんありがとうございました。大野木に幸いを呼ぼうこっけいの卵をいただきました。

三者協定の締結

12月22日15時 山東庁舎に地主代表 日本ガスケツト(株)代表取締役 近藤 孝 氏
常務取締役 山口 氏 地元地主 樋口政信 氏
行政代表 米原市長 平尾道雄 氏 竹腰自治振興課長
大野木グラウンドワーク協会 伊藤 晋、水野義弘、藤田 博の各氏が一同に会し

「地域貢献のための大野木政所夢塾公園にかかる協働協定書」の締結式がなごやかに行われました。

これはもう2年も前から、単に地主とグラウンドワーク協会だけの契約でなくこの事業が地域の先駆的モデルとして「新たな公共の担い手」の仕組みづくりであり、公としての行政の支えが地主にとっても担保として必要なことを主張し続けてきた結果として、このような形で実を結び誠に意義深いものとなりました。

改めて趣旨、目的、管理運営の責任を明らかにして協定期間は平成30年3月31日までとし、その満了時にはさらに5年間延長、その後も同様とし実質的に今後20年は持続発展を期する礎として貴重な協定となりました。

その内容は1月10日の説明資料のとおりです。

20実績と21計画について

3年目という大事な節目を迎えました。ご相談内容は10日配布資料のとおりです。無理はせずに、しかし着実に歩を進めて行きたいと願っております。

また、中学生の体験学習プログラムも案に沿って米原市教育委員会および柏原、伊吹山両中学と打ち合わせに入ります。その結果、修正部分等細部につきましては今後、昼食時において協議調整を行いたいと思います。

にほんの里 100 選

平成 21 年 1 月 6 日朝日新聞紙上で「にほんの里 100 選、決まる」の報あり、全国 4,474 件の応募から「景観」「生物多様性」「人の営み」を基準に現地調査が行われ、選定委員会の論議を経て 100 ヶ所が選ばれたとのこと。

残念ながら当「政所夢塾公園」～水の道公園（大峰山から天野川に至る）は選に入れませんでした。

これまで「だより」各号を毎回 森林文化協会に郵送してアピールしてきましたが、誠に残念という結果になりました。

100 選に選ばれた里はわずか数軒の集落から 220 平方キロに約 7 千軒が広がる散居村まで大小さまざま「里の営みを持続させようと努力を続ける元気な里」を未来へ残していくためにという趣旨で選ばれているそうです。

滋賀県では「白王・円山」（近江八幡市）

西の湖の北西にある湿地帯でヨシを生かす水郷

「甲南町杉谷新田」（甲賀市）

田畑がよく管理された畦道の美しい三重県境の約 20 戸の集落の二つが選ばれています。

どうも全国都道府県ごとに 2 ヶ所くらいで選ばれていて、景観面では水田が評価された里が多く、集落は雪国とかの建築文化など、一方、生き物との共存をめざす里として放棄田や荒地を生き物のために再生取組の地が上がっていますね。

これでハズレがはっきりして一段落、まあ一応募したことがまんざらドンキホーテでもなく勇気ある一手であったかなと

これも一つのメモリーにしておきたいと思った新年であります。

お便りします : 「だより」ご覧の皆様へ

「大野木グラウンドワークへのご案内」

新年早々突然にお便りを差し上げますが、一読のほどよろしくお願ひします。

大野木グラウンドワークへの参加お誘ひの件であります。

そもそもの大野木グラウンドワーク協会の成り立ちについて説明いたしますと、2002～2004年に県と町の後押しで始まったパイロット事業「チョコボラ通り」の後～いわゆる県の支えが終わり、一人立ちの時点で動けなくなってしまい

(この状況はどこも同じで、特に大野木では総出が増えるのでは、元来ボランティアでやるものでは等々の批判、抵抗発言があり区長はそれを乗り越えられず・・・)

そのまま1年半が過ぎ～区の主だったメンバーから誰か何とかお願ひできないかと相談を受け、平成18年秋に「夢塾メンバー」が中心になって継続していこうということになりました。

そこで次の身近な環境活動の場は、その趣旨目的、運営哲学等々につき議論を行い、場所は大峰山から天野川への「水の道公園」という壮大なスケール、古来からの太鼓踊り・自然と生活～水にテーマを置き、当面「政所夢塾公園」を拠点整備することを決定し、地主さんとの交渉に入りご都合を伺いながら対応して参りました。

以来、竹やぶジャングルを少しずつ整理して「駐車場」、「ファイヤーサークル」、「ピオトープ」、「炭窯」、「観察デッキ」等が出来上がってきました。

そして、平成20年12月22日には地主、協会、市長の三者協定が成立し、平成21年は3年目の大事な節目の年を迎えました。

この公園作りの考え方は自然(竹やぶ)と人の生活(畑)のせめぎ合い、農地と荒廃する土地、引いては日本の21世紀の課題であります「農業と少子高齢化対策」という大きな意義もありますが、それはさておいて身近な環境改善活動として、その手法はグラウンドワークというイギリスでサッチャー時代に開発された：行財政が縮むときに有効とする：今まさにピッタリのタイミングのメニューともいえ、地元のボランティアが中心となってそこに企業(日本ガスケツトさんは地主でもあり社員クラブを利用させていただいています)と行政の支援があつて、里山整備、三世代交流の場として地域貢献モデル事業をスタートさせました。

本年秋には中学生の体験学習の場も設定したいと考えておりますが、何故、今ボランティアが公園作りなのか、グラウンドワークという手法の意味は、区事業としてできないのか、などなどの疑問に簡単に説明しきれませんが、今後この事業は15年～20年の長きにわたつて地域のソーシャルキャピタルを構築しながら大野木の宝としていきたいと考えておりま

す。もちろん、いつの時代にもオープンサイテーターの原則のもとより良い形に見直しを進めながら健全なグループであり続けたいと願っております。

特に今後の展開として、今の時代背景から「新たな公共を誰が担うのか」が問われているとき、ある意味 21 世紀の地方自治の実験区にしたいとも思っております。

小さいながらも時代の要請に応えるべく「新たな公共の担い手」たる社会貢献モデルを目指しているのです。

貴君にはこれからの大野木をつないでいただく重要な役割を是非果たしていただきたく、地元・現場の動きを理解していただくためにこの活動への参加をお勧めする次第であります。

当面の日程は次のようになっています。

2/8 3/8 4/5 5/10 6/7

9 時スタート、10 時休憩、12 時昼食で解散

子連れ大歓迎、こどもたちはブランコ、ターザンロープ、じゃんけんアスレチックなどで楽しく遊び、昼食時にもぎやかな和みの場を作ってくれています。

運営基本は出入り自由、事業計画、予算、決算 それぞれに全員協議で決定。

現在 保険加入メンバーは 30 人、常時 20 数名の参加

作業メニューは竹切、椎茸植菌、草刈、炭窯修理、観察デッキ整備等々

昼食は女性陣が持ち寄ってくださった地産の新鮮な材料で、それこそ毎回「法事のごっつお」みたいな献立が並びます。

この昼食は作業する男性陣にとって大きな楽しみであります。

いつも気を使ってくれる女性陣のおかげで、なごやかな昼食会になりさらなる「やる気」を起こさせてくれます。

その日の天候状況が不良であればワークショップでお茶会にと柔軟に対応

ただいまのところ、平日も断続的に炭窯の修理に 4~6 人ずつが毎週作業しております。

どうぞ気軽に見学にお越しください。

以上、概略とご案内をかねての便りをいたしました。

よろしく願いいたします。

平成 21 年 1 月 14 日

大野木グラウンドワーク協会 代表 藤田 博

TEL 57-0771 携帯 090-5363-5567

新年雑感

21世紀日本の最大の課題は農業と少子化対策にあると思います。

かつてブームはITであったり、次に環境であった。そして今 農業に注目が集まっています。

自給率、国土の荒廃をどうするか。

デリバティブなマネーゲームではなく地に足が着いた方向として、荒れた田畑を有効活用することによって日本は再生するし、加えて少子化対策が重要な鍵とみた。

初夢ならぬ今を生きる我々流のキャラとして、時代の要請を考えると竹やぶとの奮闘は大いに意味があるものと再考した次第であります。

農業問題はこの50～60年間の課題であります。

なかなか政治、経済では切れない代物であります。

市場原理だけでなく、NPOでなく価値そのもので成り立つ新たな仕組みが必要です。

ここに一穴を開ければそれこそ世界をリードするノーベル賞ものです

それは少子化対策とて同じです。

お願いごとです

1月30日(金)10.00～10.50の間 県の「ふるさと・水と土指導員等研修会」一行約40名が訪問されます。悪天候の場合は大野木公民館にて大野木グラウンドワークの取り組みについて講義を依頼されております。

この対応手配方についてご協力のほどよろしくお願いいたします(お茶と焚き火)

炭窯修理は今後週に2～3回のペースで作業します(AM 3時間程度)都合つく方よろしくお願ひします。

次回は2月8日(日)です、続いて炭窯修理とホダ木への植菌となります。

寒中作業となりますが、もし雪模様でしたら暖かい社員クラブでお茶会ワークショップにいたしたいと思います。

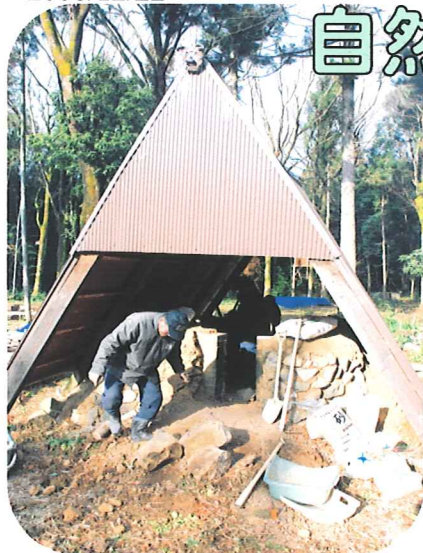
天候がどうあれ、現場かクラブかどちらかにお出向ください。



2008/12/22 夢熟公園にかかわる協定書を三者(地主日本ガスケツ株・米原市・大野木GW協会)で交わされました。山東庁舎にて

自然がいっぱいの

政所夢熟公園に来て下さい



念願の炭窯修理に着手、冬の間の作業です



炭窯修理がいよいよ始まりました。



ひび割れ防止に赤土に消石灰を入れてみました



煙突修理も同時進行



休憩時間を利用しワークショップ



差し入れの甘酒でほかほか

今年もよろしく

早く咲きました、水仙の花がテーブル



赤土を叩いて叩いてシッカリ突き固めます



何時もの食事風景です。ぜひ皆さんも一緒に参加しましょう。「待っています」



体験で気持ち良い汗かきましょう



木の本の三屋さん、「ウコッケイ」卵の差し入れ有り難う。



次回は2月8日です